講義名	国際物流論					授業形態	
担当教員	李　志明	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	DIS285

主題と概要

物流とは、企業や私達が使うモノの流れである。そのモノは原材料から完成品までのすべてのモノであり、これらのモノが国際間で流れている。国際物流は、企業間の輸出入によって生じる。また、今の企業のマネジメントはグローバルに行われており、その分、直面している課題も多様である。

このことから、本講義では、モノが国際間で流れる仕組みと実態を議論する。そして国際物流における課題と解決案を議論する。

到達目標

(1)国際物流の仕組みと動向が理解できる。
(2)国際貿易の仕組みと国際物流との関係が理解できる。
(3)ロジスティクスのグローバル戦略の動向と問題点が理解できる。

提出課題

必要によってデータ検索の課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に情報を共有しながら解釈する。

評価の基準

期末テスト100%
※授業貢献によって加算点あり。

履修にあたっての注意・助言他

授業中の議論に積極的に参加してほしい。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

教員が制作したレジュメをキャンパスクロースにアップロードする。各自、プリントアウトして、関連内容について予習しておく。また、授業内容のすべてがレジュメに記載されているわけではないので、レジュメを持って、授業に必ず出席すること。

授業計画

以下のように、15回の授業を計画する。そして、「大学設置基準第21条2」により、各授業回における計4時間の予習・復習が必要である。（　　）の内容を参考に、各自、予習と復習を実施する。

1. 国際物流論の紹介
（物流の概念、ロジスティクスと物流の相違点、海外製の商品の購入と物流）

2. 物流の概念と国際物流
（流通と物流の関係、商流と物流の相違点、国際貿易と国際物流の関係）

3. 企業の国際化と国際物流
（国際化段階、物流施設、海外進出と国際物流の関係）

4. 国際物流の担い手
（荷主の定義、キャリアの定義と種類、フォワーダーの概念）

5. 国際貿易の仕組み
（貿易の概念、関税の役割、貿易決済の仕組み）

6. 国際貿易の契約
（INCOTERMの概念、FOB、CIF）

7. 世界と日本の国際海上輸送の動向
（スエズ運河とパナマ運河、TEUの定義、日本の貿易量）

8. コンテナ輸送システム
（コンテナ輸送の歴史、ユニットロードシステムの定義）

9.国際航空物流と複合一貫輸送
（ベリー輸送の概念、Sea＆Airの定義と効果）

10.国際物流におけるインフラ
（インフラの定義、制度インフラの概念、国際物流施設の種類、物流技術とコストの関係）

11. SDGsと国際物流
（SDGｓの概念、ＥＳＧの概念、カーボンニュートラルポート）

12. 国際物流競争力
（物流パフォーマンス指標の定義、算定基準、日本の順位）

13. 国際物流における安全対策
（国際物流のリスク、24時間ルールの理解、海賊対策の効果）

14. フォーワーダー事業者の特別講義
（フォワーダー事業の役割、キャリアとの相違点）

15. まとめと国際物流の再考察
（国際物流の重要性、国際物流のリスク）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

国際物流の仕組みを理解し、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案に貢献できるようになる。また、グローバル企業のマネジメントにおいて必要な国際物流と国際貿易を理解することで、経営のグローバルな側面に関心を抱き、グローバルな課題に直面する組織で現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案に貢献できるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

各回の授業中に議論する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方と仕事のやり方などを伝え、より現実感のある講義を提供する。

備考